

令和5年9月1日

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

熊野市教育委員会

1. 教科に関する調査結果について

小学校の調査結果については2教科ともに平均正答率が全国平均を下回っています。特に国語において全国平均との差が大きくなっています。

中学校の調査結果については3教科ともに平均正答率が全国平均を下回っています。

今回対象となった中学3年生が、小学6年生時の令和2年度については、全国学力・学習状況調査が中止であったため、小中間での比較は出来ません。

【小学校の調査結果】

	国語	算数
熊野市	57 %	56 %
三重県	67 %	62 %
全国	67.2 %	62.5 %
全国との差	▲10.2 P	▲6.5 P

【中学校の調査結果】

	国語	数学	英語
熊野市	64 %	48 %	42 %
三重県	69 %	51 %	45 %
全国	69.8 %	51.0 %	45.6 %
全国との差	▲5.8 P	▲3.0 P	▲3.6 P

2. 各教科における特徴について

(1) 小学校

① 国語

- ・正答率は全問全国平均を下回っています。
- ・なかでも、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうかをみる」の正答率については、全国平均と大きな開きがあります。
- ・学習指導要領の内容では「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題がみられます。

② 算数

- ・正答率は全問全国平均を下回っています。
- ・具体的には、「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違

いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」の正答率は全国平均との開きが大きくなっています。

・学習指導要領の領域では「データの活用」の領域に課題がみられます。

(2) 中学校

① 国語

・一部の問題が全国平均を上回っています。

・具体的には「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」の正答率は全国平均を上回っています。しかし、「古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる」「具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」の正答率は全国平均との開きが大きくなっています。

・学習指導要領の内容では特に「我が国の言語文化に関する事項」に課題がみられます。

② 数学

・一部の問題が全国平均を上回っています。

・具体的には「空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ」の正答率は全国平均を大きく上回っています。しかし、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」の正答率は全国平均との開きが大きくなっています。

・学習指導要領の領域では「データの活用」の領域が全国平均を上回っていますが、「関数」の領域に課題がみられます。

③ 英語

・一部の問題が全国平均を上回っています。

・具体的には「情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる(道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する)」の正答率は全国平均を上回っています。しかし、「「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる」の正答率は全国平均との開きが大きくなっています。

・学習指導要領の内容では「読むこと」に課題がみられます。

3. 児童・生徒質問紙調査結果について

【児童質問紙（小学校：全国平均との比較）】

※○：全国平均を上回る質問項目

●：全国平均を下回るまたは上回っても課題として捉えられる質問項目

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合（以下同様）

- | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| ○自分には、よいところがあると思いますか | 熊野市：89.0% 全国：83.5% |
| ○新聞を読んでいますか | 熊野市：24.0% 全国：12.6% |
| ○今住んでいる地域の行事に参加していますか | 熊野市：69.0% 全国：57.8% |
| ○5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか | 熊野市：70.0% 全国：62.4% |
| ○学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか | 熊野市：81.0% 全国：75.7% |
| ○算数の授業の内容はよく分かりますか | 熊野市：94.0% 全国：81.2% |
| ○これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか | 熊野市：61.0% 全国：46.5% |
| ●学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） | 2時間以上の割合
熊野市：15.0% 全国25.6% |
| ●土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） | 3時間以上
熊野市：5.0% 全国13.3% |
| ●学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） | 1時間以上
熊野市：12.0% 全国18.5% |
| ●5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか | 熊野市：69.0% 全国78.8% |
| ●国語の勉強は好きですか | 熊野市：53.0% 全国61.5% |

【生徒質問紙(中学校:全国平均との比較)】

- 今住んでいる地域の行事に参加していますか 熊野市:61.9% 全国:38.0%
- 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか
「週3回以上」 熊野市:77.2% 全国:61.1%
- 英語の授業の内容はよく分かりますか 熊野市:78.2% 全国:63.9%
- 人が困っているときは、進んで助けていますか 熊野市:95.7% 全国:88.1%
- 学校に行くのは楽しいと思いますか 熊野市:89.1% 全国:81.8%
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか 熊野市:83.7% 全国:77.6%
- 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)
熊野市:64.1% 全国:55.0%
- 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか 熊野市:69.6% 全国:62.1%
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか 熊野市:77.2% 全国:71.6%
- 道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか 熊野市:93.5% 全国:86.3%
- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 2時間以上の割合 熊野市:18.4% 全国 33.7%
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)
3時間以上 熊野市:7.6% 全国18.3%
- 読書は好きですか 熊野市:53.3% 全国66.0%
- 国語の勉強は好きですか 熊野市:44.6% 全国61.4%
- 将来の夢や目標を持っていますか 熊野市:58.7% 全国66.3%

小中学校ともに「これまで受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」という問いに対して「週3回以上使用した」と回答している児童生徒の割合が全国に比べ大幅に上っており、「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という問いに対して肯定的に回答している割合が高く、小中学校の授業において目的に応じた ICT を活用した授業改善が進んでいることと、児童生徒が ICT 活用力の重要性を感じていることが伺えます。

「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という問いに対して肯定的に答えている児童生徒の割合が高く、児童生徒にとって、学級内での話し合い(協働活動)の価値が高く位置付けられていることが伺えます。

「新聞を読んでいますか」という問いに対して、読む機会が多いと答えた児童生徒は、全国に比べて高い割合を示していますが、「読書は好きですか」という問いに対して肯定的に答える児童生徒の割合が低いいため、今後、学校と家庭の両方で読書が好きになる「きっかけ作り」が重要と思われます。

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いませんか」という問いに対して、肯定的に答えている児童生徒の割合が高く、地域の取組が、子どもたちの豊かな学びの実現につながっていることが伺えます。

小学校では「算数の授業の内容はよく分かりますか」という項目が大幅に全国を上回っており、「国語・英語の勉強は大切だと思いますか」についても全国に比べ大幅に上回っていることから学習意欲の向上がみられます。

中学校では「英語の授業の内容はよく分かりますか」という項目が大幅に全国を上回っており、1・2年生の学習において「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動」や「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動」等の実施に肯定的に回答している割合が高く、「聞く・読む・書く・話す」という内容をバランスよく取り入れた授業改善が進んでいることがうかがえます。

4. 学校質問紙調査結果から見てきた傾向

全国学力・学習状況調査では児童生徒質問紙調査に加え学校における指導方法に関する取り組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する学校質問紙調査を実施しています。

その中で「学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか」「一人ひとりのよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか」については、すべての小中学校が肯定的に回答しており児童生徒一人ひとりの学習状況を丁寧に把握しながら学力向上・授業改善に向けて各学校が取組を具体的に進めていることがうかがえます。

その一方で、ICTを活用した学習状況に関わる調査内容において、「調べ学習」「自分の考えをまとめ、発表・表現」「他者とのやり取り」等におけるPC・タブレットなどの活用については、学校間で差がみられます。

5. 今後の取組について

熊野市教育委員会では児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着に向け学力向上推進事業を軸とした研修事業を展開しています。8月下旬に行った学力向上研修会では武庫川女子大学森脇教授(前三重大学教授)を講師として招き本年度の全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の授業改善の在り方について研修を行うとともに、各校で行った学力についての分析と2学期以降の対策について協議いたしました。また市の研究指定を受けた学校が外部講師による年間を通じた指導を受けながら授業改善に努め、この成果を市内各校に還流して参ります。

加えて、県教育委員会の学力向上事業の指定を受けた学校により、算数における習熟の程度に応じた1人1台学習端末等のICT機器を活用した効果的な指導方法について実践的な研究を進めています。

今後はそれらの学校の実践で得た成果と課題を他の学校にも還流するとともに、紀州教育支援事務所指導主事や熊野市教育委員会指導主事が学校訪問による授業研究を通して学校での研修体制の充実を目指します。その中で、全国学力学習状況調査の結果を踏まえた具体的な授業改善の提案を図り、課題の克服に努めていきます。